日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRSj NEWS

PUBLIC RELATIONS SOCIETY OF JAPAN

2015年1月
NO. 259

TOPICS

「年頭のご挨拶」
(公社)日本パブリックリレーションズ協会　理事長　近見竹彦
MESSAGE　P3

「＜再掲＞「新春PRフェスタ2015」を
2015年1月21日(水)に開催します！」
ATTENTION　P4

「広報PRアカデミー2014
「PRSJ特別シンポジウム」を1月27日に開催」
ATTENTION　P5

「広報PRアカデミー2014
「1次試験対応講座(冬期)」を1月28日開講」
ATTENTION　P6

「広報PRアカデミー2014
「CSRコミュニケーション講座」を1月29日に開講」
ATTENTION　P7

「第16回「PRプランナー資格認定検定試験
1次試験受験予約は、1月23日(金)まで！」
ATTENTION　P8

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号　六本木ヒルズノースタワー5F
電話(03)5413-6760　ファックス(03)5413-2147
URL　http://www.prsj.or.jp/

関西支部　〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002　ファックス(06)6344-3005

発行人:近見　竹彦

1月号　目次

1月～2月のスケジュール		
MESSAGE(メッセージ)	「年頭のご挨拶」	3
ATTENTION(お知らせ)	「再掲:「新春PRフェスタ2015」を2015年1月21日に開催します！」	4
〃	「広報PRアカデミー2014「PRSJ特別シンポジウム」を1月27日に開催」	5
〃	「広報PRアカデミー2014「1次試験対応講座(冬期)」を1月28日開講」	6
〃	「広報PRアカデミー2014「CSRコミュニケーション講座」を1月29日に開講」	7
	「第16回PRプランナー資格認定検定試験　1次試験受験予約は1月23日(金)まで！」	8
BULLETIN(活動報告)	「異文化勉強会　駐日オランダ王国大使館　訪問」**【会員限定】**	10
〃	「「日本PR大賞(パーソン・シチズン)」「PRアワードグランプリ」決定」	11
〃	「第17回「広報ゼミ」開催報告」**【会員限定】**	15
VOICE of PR Planner	「交流の輪が広がるコミュニケーションツール」	16
REPORT(講演レポート)	「第161回定例研究会開催報告」**【会員限定】**	17
PR TREND(PRトレンド(関西)	「関西の風:カジノ・IRについて考える」	18
協会掲載記事	「PRSJ　in　Media　12 月」	19
PLAZA(会員便り)	「ウェーバー・シャンドウィックがアジア太平洋地域主要8都市のソフト・パワー調査を発表」	20

1月～2月スケジュール

広報PRアカデミー2014 **3 次試験対応講座(冬期)**	日　時 会　場	： ：	1 月 7 日(水)、14 日(水)、21 日(水)　いずれも 19:00～ 泉ガーデン･コンファレンスセンター
広告界合同年賀会	日　時 会　場	： ：	1 月 7 日(水)　15:30～ 帝国ホテル「孔雀の間」
新春PRフェスタ 2015	日　時 会　場	： ：	1 月 21 日(水)　16:00～ グランドハイアット東京　2F
異文化勉強会	日　時 会　場	： ：	1 月 23 日(金)　11:30～ インドネシア共和国在日大使館
PRプランナー資格認定 **検定 3 次試験**	日　時 会　場	： ：	1 月 24 日(土)　12:25～ 富士通ラーニングメディア　品川ラーニングセンター(東京)
PRSJ特別シンポジウム	日　時 会　場	： 	1 月 27 日(火)　18:30～ 秋葉原UDXカンファレンス
広報PRアカデミー2014 **1 次試験対応講座(冬期)**	日　時 会　場	： ：	1 月 28 日(水)、2 月 4 日(水)、10 日(火)、18 日(水) いずれも 19:00～ 六本木アカデミーヒルズ 49
PRスキル研究会(PR業部会)	日　時 会　場 講　師 テーマ	： ： ： ：	1 月 29 日(木)　17:30～18:30 ㈱オズマピーアール　「プレゼンルーム」 ㈱TBWA＼HAKUHODO　クリエイティブディレクター 原 田　朋 氏 「PRの未 来　～カンヌライオンズ 2014 レポート」(仮)
広報PRアカデミー2014 **プロフェッショナル広報･PR** **実務シリーズ**	日　時 会　場 講　師 テーマ	： ： ： ：	1 月 29 日(木)　19:00～21:00 六本木アカデミーヒルズ 49 立教大学大学院　社会デザイン研究科　研究員　齋藤哲男氏 「CSRコミュニケーション講座」
2014 年度PRアワードグランプリ **優秀事例セミナー**	日　時 会　場	： ：	2 月 12 日(木)　18:30～ 富士ソフト　セミナールーム
広報PRアカデミー2014 **プロフェッショナル広報･PR** **実務シリーズ**	日　時 会　場 講　師 テーマ	： ： ： ：	2 月 25 日(水)　17:00～21:00 六本木アカデミーヒルズ 49 中央大学ビジネススクール(大学院　戦略経営研究科) 教授　田中　洋氏 「ブランド･コミュニケーション講座」
第 162 回定例研究会	日　時 会　場 講　師	： ： ：	2 月 26 日(木)　12:00～ 日本外国特派員協会(FCCJ) 東洋経済新報社「週刊東洋経済」編集長　高橋由里氏

12月～1月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	**（１月度）**	日　時	：	１月	13 日	（火）	12:00～14:00
	（２月度）			２月	10 日	（火）	12:00～14:00
		場　所	：	六本木ヒルズクラブ			
幹部会	**（１月度）**	日　時	：	１月	13 日	（火）	10:30～11:45
	（２月度）			２月	10 日	（火）	10:30～11:45
		場　所	：	協会会議室			
教育委員会	**（１月度）**	日　時	：	１月	15 日	（木）	16:30～18:00
	（２月度）			未定			
		会　場	：	協会会議室			
資格委員会	**（１月度）**	日　時	：	１月	22 日	（木）	12:00～14:00
	（２月度）			２月	26 日	（木）	17:00～18:30
		会　場	：	協会会議室			
交流委員会	**（１月度）**	日　時	：	１月	15 日	（木）	12:00～13:30
	（２月度）			２月	19 日	（木）	12:00～13:30
		会　場	：	協会会議室			
広報委員会	**（１月度）**	日　時		１月	6 日	（火）	12:00～14:00
	（２月度）			２月	2 日	（月）	12:00～14:00
		会　場	：	協会会議室			
企業部会幹事会	**（１月度）**	日　時	：	１月	13 日	（火）	17:00～18:00
	（２月度）			未定			
		会　場	：	協会会議室			
ＰＲ業部会幹事会	**（１月度）**	日　時	：	１月	20 日	（火）	16:00～18:00
	（２月度）			２月	17 日	（火）	16:00～18:00
		会　場	：	協会会議室			

年頭のご挨拶

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事長　近見竹彦

新年明けましておめでとうございます。
本年が皆さまにとって良い年でありますよう、心より祈念いたします。

さて、昨年は、消費税 8%のスタート、年末に行われた「アベノミクス」の是非を問う衆議院選挙、海外においては航空・船舶事故、エボラ出血熱の流行など、国内外の政府、企業・組織のリーダーシップ、危機管理や、アドボカシー活動が試されるような、課題の多い年でありました。われわれＰＲ業界だけではなく、社会全体が、「パブリックリレーションズ」の果たすべき役割の重要性を感じた年であったと思います。

一方、ＰＲ業界に目を向けてみますと、昨年、特にグローバルレベルで語られた言葉のひとつに「ブランドジャーナリズム」というものがあります。企業や組織が、ジャーナリスト的な手法で、ブランドストーリーとなるコンテンツを作り、オウンドメディアを中心に情報を伝えていくという手法です。特にＢtoＣの多国籍企業において、このアプローチを導入する動きが見られました。

グローバル規模でビジネスを展開する企業にとっては、異なるメッセージを、異なる地域の、異なるニーズをもった、異なる人々に、さまざまなシチュエーションにおいて、伝えていくためのマルチディメンショナルなストーリーテリングにおいては、今後欠かせないものとなるでしょう。

日本においては、ニュースメディアや、消費者のレビューといったサードパーティコンテンツが、消費者に与える影響がまだまだ大きいようですが、今後、「ブランドジャーナリズム」という考え方が徐々に浸透してくるものと思います。そしてそれによって「パブリックリレーションズ」の定義もより広いものになると予測しています。

このような変化のうねりの中ではありますが、本年、協会は着実に以下の活動を取り組んでいきたいと思っています。

1つ目は、「ＰＲアワードグランプリ」のさらなる活性化です。昨年も、発表会を含め大いに盛り上がったのですが、欧米のアワードに比べ、まだまだ応募数が少ない状況です。審査方法、審査基準なども、わかりやすいものにし、より多くの応募が集まる話題性の高いアワードにしていきたいと思います。

次にＰＲプランナー会員の組織化です。会員相互のネットワーキング、「プランナー部会」といった会員の集まれる場づくり、ナレッジの更新、そして受験者の増加を促すような広報活動も行っていきたいと考えています。

そして 3 つ目は、ＰＲマーケットの再定義です。「ブランドジャーナリズム」との関連で述べましたが、「パブリックリレーションズ」の領域が広がりつつあります。2012 年にアメリカＰＲ協会（ＰＲＳＡ）が新しいＰＲの定義を発表しましたが、われわれも現在の実情にあった、「パブリックリレーションズ」を定義し、そのマーケット規模を調査したいと思います。

今年の 1年間だけではできないこともあるかと思いますが、2015 年はそのスタートの年にしたいと思っています。いずれのプロジェクトも、会員の皆様のサポートとお力がなければ達成できないことと存じます。

本年も、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ATTENTION

再　掲

「新春ＰＲフェスタ 2015」を 1 月 21 日(水)に開催します！

すでにご案内の通り、新年 1 月 21 日（水）に「新春ＰＲフェスタ 2015」(「新春ＰＲフォーラム」「賀詞交歓会」）が開催されます。

「第6回新春ＰＲフォーラム」では、第1部に「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」の表彰式を執り行います。

2014年度「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」は九州旅客鉄道（ＪＲ九州）㈱ 代表取締役会長　唐池恒二氏、2014年度「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、ＮＰＯ法人富岡製紙場を愛する会に決定しました。
当日は両賞とも、表彰式にご出席いただき、受賞記念のスピーチをしていただく予定です。

第 2 部は新年特別講演会として、ジャーナリスト・共同通信客員論説委員（元共同通信社 編集局長）の後藤謙次氏に「第 3 次安倍政権の課題と展望」をテーマにご講演いただきます。

「新春ＰＲフォーラム」終了後、賀詞交歓会を行います。昨年同様、今年も一般（非会員）の方にもご参加いただき、また日頃お世話になっている報道関係の方々もご招待いたします。

ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、より多くの皆様にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

【新春ＰＲフェスタ 2015】

会費：会員社・一般（非会員）　1 名　10,000 円
※参加費は会員(会員社)・一般（非会員）を問わず10,000円
（新春ＰＲフォーラムまたは賀詞交歓会のどちらかのご参加の場合でも 10,000 円です。一般（非会員）の方も賀詞交歓会にご参加いただけます。）

【第6回新春ＰＲフォーラム】

開催日時 ：
第1部　2015年1月21日（水）　16：00～17：00（予定）　（開場 15：30）
2014年度「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び
「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」表彰式と受賞記念スピーチ
・「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」: 受賞者は唐池恒二氏
・「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」: 受賞者はＮＰＯ法人富岡製糸場を愛する会
第2部　2015年1月21日（水）　17：00～18：00（予定）
新春特別講演
講師：ジャーナリスト・共同通信客員論説委員（元共同通信社 編集局長）
後藤謙次氏
テーマ：「第 3 次安倍政権の課題と展望」
会　　場 ： グランド ハイアット 東京　2Ｆ　「アニス」

【賀詞交歓会】

開催日時 ： 2015年1月21日（水）　18：30～20：30（予定）
□受付開始（18：00～）　□開場（18：20～）　□開演（18：30～）
会　　場 ： グランド ハイアット 東京　2Ｆ　「バジル」

広報PRアカデミー2014

「PRSJ特別シンポジウム」を１月 27 日に開催

教 育 委 員 会

当協会は、メディアや社会のデジタル化を背景に広報・ＰＲの進化と普遍的な本質を探る特別シンポジウム「デジタル化するメディア・社会と広報・ＰＲ～広報・ＰＲは企業・組織、メディア、生活者をどのようにつなげるか～」を来る１月 27 日、東京・秋葉原の「ＵＤＸカンファレンス」にて、開催いたします。

スマホ、タブレット端末などデバイスの多様化やデジタル・通信技術の進化に対応してメディアが提供するコンテンツも文字、写真から音声、動画等へと広がり、流通する情報量は飛躍的に増大、メディア環境も劇的な変化をとげつつあります。そのなかで、企業・組織、メディア、生活者はデジタル化の波にのみ込まれ、錯綜する情報のなかで孤立しているようにみえます。企業・組織、メディア、生活者の分断を克服する新たな関係性の構築は、これからの広報・ＰＲにおける重要な役割となることが予見されます。

急速に進むデジタル化によりメディアの構造はどう変わるのか、それに伴って広報・ＰＲにはいかなる対応を求められるのか？ 一方、変化することなく保ち続けるべき広報・ＰＲの本質や役割は何か？ 広報・ＰＲパーソンは新世代のメディア環境や技術に対応するため、いかなる専門性を身につけるべきなのか？本シンポジウムでは、ジャーナリズムや広報・ＰＲにおいて“デジタル・コンテンツ”の活用に取り組む第一人者をお招きし、企業・組織、メディア、生活者の視点から、「デジタル化するメディア・社会における広報・ＰＲの在り方」を論じます。
参加申込みについては、以下をご参照の上、協会Ｗｅｂサイトよりお申込みください。

テーマ	「デジタル化するメディア・社会と広報・PR ～広報・PRは企業・組織、メディア、生活者をどのようにつなげるか～」
日　時	2015 年 1 月 27 日（火）18:30～20:45
会　場	UDXカンファレンス 「Room　A＋B」 東京都千代田区外神田 4-14-1　　秋葉原UDX南ウイング6F http://www.udx-c.jp/access.html
登壇者	［パネラー］ 土屋直也氏（株式会社ソクラ　代表取締役　News Socra 編集長） 佐々木紀彦氏 （株式会社ユーザーベース　執行役員　NewsPicks 編集長） 嶋　浩一郎氏 （株式会社博報堂ケトル　代表取締役社長） 坂井康文氏（ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社　広報部ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ開発部長） ［コーディネーター］ 細川一茂氏 （株式会社電通パブリックリレーションズ　シニアコンサルタント）
申込締切	2015 年 1 月 23 日（金）
定員	120 名
参加費(税込)	一　般5,000 円 PRプランナー(准・補含む)　　4,000 円 日本PR協会会員　　4,000 円 ※参加費は、当日、会場受付で現金にてお支払ください。なお、日本PR協会会員の方で、請求書によるお支払いをご希望の場合は事務局までご連絡ください。
お申込み方法	日本PR協会の広報PRアカデミーの Web サイト「特別シンポジウム」のページをご参照の上、指定のフォームに必要事項を記入してお申込みください。 http://event.prsj.or.jp/sp_sympo

広報PRアカデミー2014

「1 次試験対応講座(冬期)」1 月 28 日開講

―ＰＲプランナー1 次試験合格のための実力強化講座―

教　育　委　員　会

当協会では、来る 2015 年 1 月 28 日より「広報ＰＲアカデミー2014　ＰＲプランナー1 次試験対応講座（冬期)」を開講いたします。

本講座は、ＰＲプランナーを志す皆様の登竜門となる 1 次試験の合格を目的とし、合格に必要となる広報・ＰＲの基礎知識の習得に向けて 4 回にわたって開講します。

本講座では、実践的かつ効果的な 1 次試験対策となるよう過去のＰＲプランナー1 次試験で実際に出題された問題を使用した模擬試験を実施し、解答の解説を通じて 1 次試験に出やすい内容のポイントについて理解を深めます。また、受講を通じて実際のＰＲプランナー1 次試験の形式やレベルについても把握できるなど、受験準備として最適な講座として開講します。

なお、本講座は、インターネットにより時と場所を選ばず履修が可能な Web 受講、演習への参加により高い履修効果を得ることのできる会場受講のいずれかを選択して申し込むことができます。講座の詳細と受講申込みは協会Ｗｅｂサイトの「ＰＲプランナー1 次試験対応講座 （冬期）」のページをご参照ください（以下ＵＲＬ)。

http://event.prsj.or.jp/prp/1st_2014winter

■PRプランナー1 次試験対応講座の概要

開講日程	講 座 概 要	講 師	受講料	申込締切
1 月 28 日（水）	模擬試験と解説 ・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営とパブリックリレーションズ ・広報・PR マネジメント	真部一善氏 （日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長）	[会場受講＋Web 受講] 一般 32,400 円 学生 19,440 円 日本PR協会会員社員 21,600 円 [Web 受講のみ] 一般 21,600 円 学生 19,440 円 日本PR協会会員社員 21,600 円	[会場受講＋Web 受講] 1 月 26 日（月）まで [Web 受講のみ] 講座開始後も、受講を受付けます。
2 月 4 日（水）	模擬試験と解説 ・インベスターリレーションズ ・エンプロイーリレーションズ ・ネット PR	真部一善氏 （日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長）		
2 月 10 日（火）	模擬試験と解説 ・コミュニケーションと PR ・メディアリレーションズ ・マーケティングと PR	永井昌代氏 (APCO Worldwide 合同会社シニア・ディレクター)		
2 月 18 日（水）	模擬試験と解説 ・行政・団体の広報活動 ・国際広報 ・企業と危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム	永井昌代氏 (APCO Worldwide 合同会社シニア・ディレクター)		

日本PR協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

広報PRアカデミー2014

「CSRコミュニケーション講座」を１月29日に開講

教　育　委　員　会

当協会は、来る１月 29 日午後７時より「広報ＰＲアカデミー2014 プロフェッショナル広報・ＰＲ実務シリーズ」第３回として「ＣＳＲコミュニケーション講座」を開講いたします。

近年、企業が持つ社会的責任（ＣＳＲ）は経営の基軸として認識されつつあり、その本質的な背景や「企業と社会の新しい関係」に関する理解、その形成をめざす取組みは経営において不可欠といえます。そして経営戦略にＣＳＲの視点を組み込むことの重要性が高まるとともに、ステークホルダーとの間で双方向のコミュニケーションの推進が大きな課題となりました。

本講座では昨年に引き続き、立教大学大学院社会デザイン研究所研究員　齋藤哲男氏をお招きし、ＣＳＲの概念や歴史、国際規格、日本企業にみられる先例等についてご解説いただき、ＣＳＲやＣＳＶの背景と「企業と社会の新しい関係」について学びます。さらに、企業が自らの価値を社会的視点から表現し、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを通じてより好ましい関係の構築をめざす経営と広報・ＰＲについて考えます。

講座の詳細ならびに申込みについては、協会 Web「広報ＰＲアカデミー2014」（以下 URL）の講座案内ページをご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/pr-academy-2014/pro-csr

■プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ　今後の予定

開講日時	講　　座	講　　師
2 月 25 日 （水） 17:00～ 21:00	● ブランド・コミュニケーション講座 「『コンセプト・ブランディング』の基本と施策の立案 ～ｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱ時代におけるﾌﾞﾗﾝﾄﾞ構築に向けた戦略ｱﾌﾟﾛｰﾁ～」	田中　洋 氏 （中央大学ビジネススクール［大学院戦略経営研究科］教授）
3 月 25 日 （水） 19:00～ 21:00	● グローバル・コミュニケーション講座 「日本企業に求められるグローバル・コミュニケーションとは？ ～グローバル環境における広報の役割～」	ロス・ローブリー 氏 （㈱エデルマン・ジャパン代表取締役社長）

クライシス・コミュニケーション講座を開講

「プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ」第２回の「クライシス・コミュニケーション講座」が、講師には危機管理の専門家として著名な㈱田中危機管理広報事務所　代表取締役社長　田中正博氏を迎え 12 月 18 日に開講されました。危機管理事例の精緻なケーススタディや危機対応のポイントは会場の注目を集め、具体的なケースを設定したグループワークに取組む真剣な受講者の姿が見られました。

お急ぎください！

第 16 回ＰＲプランナー資格認定検定試験

１次試験受験予約は、１月 23 日（金）まで！

試験日：2015 年 3 月 1 日　試験会場：東京・大阪・福岡

資　格　委　員　会

第 16 回となるＰＲプランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：3 月 1 日(日)）を、東京・大阪、福岡会場にて実施します。

日本ＰＲ協会が認定する「ＰＲプランナー資格認定制度」は、広報・ＰＲの業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は 1 次から 3 次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・ＰＲに関する高い専門能力の保有を認定する「ＰＲプランナー」資格を取得することができます。本制度は 2007 年より発足しすでに 14 回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した 1,767 名のＰＲプランナーが一般企業、ＰＲ会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、1 月 23 日（金）までとなっておりますので、お急ぎくださいますようお願い申し上げます。

＜ＰＲプランナー資格認定制度／検定第 1 次試験　実施概要＞

試験日	2015 年 3 月 1 日（日） 試験は東京・大阪・福岡会場ともに 3 月 1 日（日）午前中に同時実施・終了する予定です。
募集定員	東京：400 名・大阪会場：80 名・福岡会場：60 名
受験応募・申込方法	資格制度Ｗｅｂサイトで受験予約を行った上で申込書を郵送
受験予約期間	2014 年 12 月 1 日（月）～2015 年 1 月 23 日（金）
申込書送付期間	2014 年 12 月 2 日（火）～2015 年 1 月 30 日（金）＜必着＞
受験票送付	2015 年 2 月 20 日（金）発送
合否通知送付	2015 年 3 月 13 日（金）発送 ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2 次試験ならびにＰＲプランナー補認定申請のご案内を、メールで 3 月 16 日（月）にお送りします。

＜試験時間＞

０９時３０分	各試験会場に入館できます
１０時２０分	指定の教室・座席にご着席ください
１０時２５分	注意事項伝達・試験問題配布
１０時４０分	試験開始
１２時００分	試験終了

※資格検定試験の詳細は、以下 URL の協会ＰＲプランナー資格Ｗｅｂサイトをご覧ください。

http://pr-shikaku.prsj.or.jp/

受験会場

第 16 回ＰＲプランナー資格認定検定試験(1 次試験)の験会場は、東京・大阪・福岡の下記会場となります。試験開始時刻（10 時 40 分）の「20 分前（10 時 20 分)」までにお越しになり、指定の座席にご着席ください。

東京会場

明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー
東京都千代田区神田駿河台１－１

・ＪＲ中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線
「御茶ノ水駅」下車 徒歩５分

・東京メトロ千代田線
「新御茶ノ水駅」下車 徒歩７分

・都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ
半蔵門線「神保町駅」下車 徒歩７分

大阪会場

毎日インテシオ
大阪府大阪市北区梅田３－４－５

・ＪＲ大阪駅、阪急、阪神、地下鉄各駅から
「西梅田地下歩行者道」を通り徒歩約 15 分。

西梅田地下歩行者道「6－10」番出口から 毎日インテシオ入口にお入りいただき、エスカレータとエレベーターで会場へお越しください。

福岡会場

ＡＱＵＡ博多
福岡県福岡市博多区中洲５－３－８

・地下鉄空港線「中洲川端駅」下車 徒歩４分

会 員 限 定

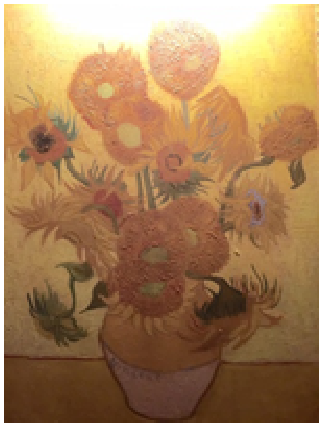
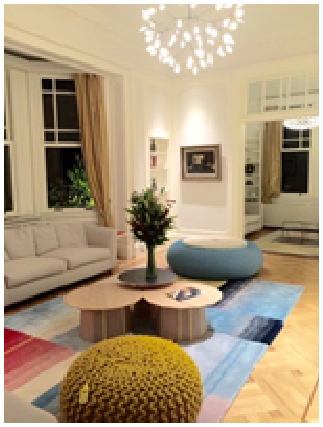
異文化勉強会
駐日オランダ王国大使館　訪問

交　流　委　員　会

交流委員会は、世界の様々な地域の文化に直接触れ、その地域の生活・経済・社会などの見聞を広めることを目的とした異文化勉強会を年に数回開催しています。

この度訪問したのは、政治、経済、文化などさまざまな分野で日本と友好関係を築いてきた駐日オランダ王国大使館。昨秋、当協会監事であり、法人正会員のウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド株式会社 代表取締役会長 西谷武夫氏が長年にわたり公私両面で、オランダ王国と日本の交流に大きく貢献した功績が認められ、オランダ王国 国王陛下より勲章を受章されたのは皆様のご記憶にも新しいと思います。

神谷町から徒歩 5 分。ジェームズ・マクドナルド・ガーディナー氏による設計を上林敬吉が引き継ぎ、1928 年に完成した大使公邸はこの上なく優美な佇まいで、私達を出迎えてくれました。

「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」に唐池恒二氏
「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」に NPO法人富岡製糸場を愛する会
「PRアワードグランプリ」に２作品同時受賞 株式会社電通 ファイザー株式会社／株式会社オズマピーアール

顕　彰　委　員　会

2014年度「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」及び「ＰＲアワードグランプリ」の受賞者(社・団体) が以下のように決定いたしました。

「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」
「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」

2014 年度「日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」は、その基本理念であるパブリックインタレスト（公益）に貢献した人、あるいはそれぞれの分野でＰＲの視点から活躍した人を表彰するもので、過日、会員の皆様方に投票していただいた結果を基に、顕彰委員会での最終審議を経て、今年度の受賞は「ななつ星 in 九州」の運行などで話題となった、九州旅客鉄道株式会社（ＪＲ九州）代表取締役会長の唐池恒二氏に決定しました。

また、「日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、「地道で独創的な広報・ＰＲ活動」の掘り起しを目的に、企業や団体で長年にわたり独創的な広報・ＰＲ活動を実践し、広く社会や地域の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（ＮＰＯを含む）を公益法人として認定・顕彰するもので、第４回目となる今回は、過日会員の皆様に推薦していただいた７名(団体)の中から、世界遺産登録の原動力となる活動を続けてこられた、「ＮＰＯ法人富岡製糸場を愛する会」に決定しました。

【日本ＰＲ大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー】

受 賞 者 ：唐池恒二（からいけ こうじ）氏

受賞理由 ：思い切った経営戦略を元に事業再編を進め、ＪＲ九州の収益を改善。和を感じさせる内装の九州新幹線や九州内を走る特徴ある観光列車、さらには豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」の運行など、鉄道の旅の新しい魅力を創造するなど鉄道を活かしつつ地域とも密接に連携を深め、九州の魅力を積極的に発信している。さらに東アジアに近い九州の地理的条件を活かし海外からの観光客誘致にも取り組み、九州全体の活性化に大きく貢献した。

【日本ＰＲ大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー】

受賞団体 ：ＮＰＯ法人富岡製糸場を愛する会（とみおかせいしじょうをあいするかい）

受賞理由 ：「富岡製糸場を愛する会」は当時の所有者である片倉工業株式会社が操業をやむなく停止した年の翌年、1988 年に誕生した。片倉工業は 1987 年の操業停止後も工場の維持管理にあたってきた。
「愛する会」は富岡製糸場の持つ価値を知るために、わずか数人の学習会からスタートし、製糸場の歴史的文化的に極めて優れた産業遺産であることを学び、その普及に努められた。その長きに亘る熱心な活動が実り、2014 年 6 月の世界遺産登録の原動力となった。
10 月には国宝指定が答申され、繭から生糸を取り出す繰糸所（そうしじょ）と、東西にある置繭所（おきまゆじょ＝繭倉庫）の計 3 棟が 12 月 10 日国宝に指定された。

なお、表彰式ですが、1 月 21 日（水）開催の「新春ＰＲフェスタ 2015」の「新春ＰＲフォーラム」第 1 部で執り行います。

ＰＲアワードグランプリ

12月8日（月）、六本木アカデミーヒルズ49「オーディトリアム」において、2014年度「ＰＲアワードグランプリ」の最終審査会が開かれ、通常はグランプリ1作品、部門最優秀賞4作品を選定・表彰するものですが、今年はアワード史上初めてグランプリ2作品同時受賞となりました。
特別審査員 5 名、各部門審査員長 4 名、会員公募の審査員 37 名による厳正な選考の結果、最高得点（グランプリ）を獲得したのは、株式会社電通「地方の生産者と、都市の生活者との断絶を克服。世界初の食べる月刊情報誌「東北食べる通信」創刊＆ブランディング作業」と、ファイザー株式会社／株式会社オズマピーアール「ピリピリ！ジンジン！チクチク！見えない痛みどう伝える？産学共同プロジェクト『オノマトペラボ』「痛みのオノマトペ」で医療現場におけるコミュニケーション課題を解決」でした。

グランプリ：㈱電通

グランプリ：ファイザー㈱／㈱オズマピーアール

また、部門最優秀賞は、各門最優秀賞はコーポレート・コミュニケーション部門は旭硝子株式会社「世界最高峰のスポーツイベントＦＩＦＡ Ｗ杯で, 史上初のガラスベンチルーフのライセンス権獲得と戦略的ＰＲ展開による低予算での全社的なＡＧＣ旭硝子グローバルブランディング・プロジェクト」、

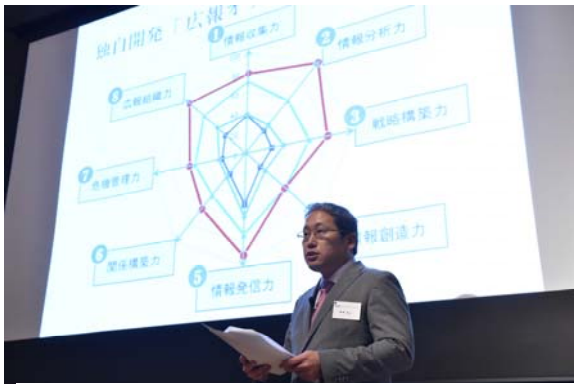
コーポレート・コミュニケーション部門
最優秀賞：旭硝子株式会社

マーケティング・コミュニケーション部門
最優秀賞：ピーアールコンビナート株式会社

マーケティング・コミュニケーション部門は株式会社伊藤園／ピーアールコンビナート株式会社「伊藤園お～いお茶新俳句大賞の25 年（四半世紀）」、

イノベーション／スキル部門は株式会社電通パブリックリレーションズ「広報オクトパスモデル開発 上場企業の広報力比較調査 ～広報業界のさらなる発展をめざして～」にそれぞれ決定しました。

なお、今年度グランプリが2 作品ともソーシャル・コミュニケーション部門より選出されたため、同部門最優秀賞は該当なしとなりました。



イノベーション／スキル部門
最優秀賞：株式会社電通パブリックリレーションズ

また、「ＰＲアワードグランプリ」の表彰式は、12 月8日（月）最終審査会終了後、同会場にて執り行いました。

グランプリ受賞の㈱電通。左は近見理事長。

グランプリ受賞の㈱オズマピーアール。左は近見理事長。

＜2014 年度「ＰＲアワードグランプリ」＞(優秀賞は各部門エントリー順)

賞	活動の名称	エントリー会社
PRアワードグランプリ	「地方の生産者と、都市の生活者との断絶を克服。世界初の食べる月刊情報誌「東北食べる通信」 創刊＆ブランディング作業」	株式会社電通
	「ピリピリ！ジンジン！チクチク！見えない痛みどう伝える？　産学共同プロジェクト『オノマトペラボ』「痛みのオノマトペ」で医療現場におけるコミュニケーション課題を解決」	ファイザー株式会社 株式会社オズマピーアール
コーポレート・コミュニケーション部門 ＜最優秀賞＞	「世界最高峰のスポーツイベントFIFA W 杯で、史上初のガラスベンチルーフのライセンス権獲得と戦略的PR展開による低予算での全社的な AGC 旭硝子グローバルブランディング・プロジェクト」	旭硝子株式会社
コーポレート・コミュニケーション部門 ＜優秀賞＞	「らくがきCafe＆BAR」	ぺんてる株式会社 株式会社博報堂
コーポレート・コミュニケーション部門 ＜優秀賞＞	「ミドリムシが地球を救う！　バイオベンチャー「ユーグレナ」社・ブランディング 5 ヵ年計画」	株式会社電通
コーポレート・コミュニケーション部門 ＜優秀賞＞	「回転寿司トップの「スシロー」を外食業界のリーディングカンパニーに！ ～外食受難時代、“うまい！”より“すごい！”で創る企業価値～」	株式会社博報堂
マーケティング・コミュニケーション部門 ＜最優秀賞＞	「伊藤園お～いお茶新俳句大賞の 25 年（四半世紀）」	株式会社伊藤園 ピーアールコンビナート株式会社
マーケティング・コミュニケーション部門 ＜優秀賞＞	「大塚製薬「ソイカラ」PRプロモーション」	株式会社フルハウス
ソーシャル・コミュニケーション部門 ＜優秀賞＞	「留学促進キャンペーン 「トビタテ！留学ジャパン」）」	株式会社電通
ソーシャル・コミュニケーション部門 ＜優秀賞＞	「““災害と共存して『生きる力』”を高める市民運動化プロジェクト” 「みんなの防災手帳」による市民のための防災・減災意識向上活動」	株式会社博報堂 株式会社東北博報堂
イノベーション／スキル部門 ＜最優秀賞＞	「広報オクトパスモデル開発　上場企業の広報力比較調査 ～広報業界のさらなる発展をめざして～」	株式会社電通パブリックリレーションズ
イノベーション／スキル部門 ＜優秀賞＞	「ソーシャルエンゲージメントセンター」	株式会社電通

会 員 限 定

第 17 回「広報ゼミ」開催報告
WEBメディア・ソーシャルメディアを含めた情報収集と発信

企 業 部 会

企業部会「広報ゼミ」では、各社の広報活動事例を身近に聞き、広報の感覚を身につけることを目的に、ゼミナール形式の勉強会を開催しています。

第 17 回「広報ゼミ」は 11 月 28 日（金）㈱野村総合研究所 丸の内総合センターにて、「ＷＥＢメディア・ソーシャルメディアを含めた情報収集と発信」をテーマに開催しました。

15 社から 20 名が参加しました。

交流の輪が広がるコミュニケーションツール

ミサワホーム株式会社
武田路和

皆さま、こんにちは。ミサワホームで広報・ＩＲを担当している武田路和と申します。この度、ＰＲプランナーの勉強会でご一緒させていただいた、穏やかでいつもにこやかな野村総合研究所の都甲晋平様からバトンを引き継ぎまして、微力ながら、私も経験談や日々の活動をお伝えし、少しでも皆さまのお役に立てればと奮起して筆を執りました。

そもそも、私がＰＲプランナーを取得したのは、今から5年ほど前、2009年のことです。私自身は、現在の広報部門に2006年に着任しましたが、当時、ＰＲ関連の資格は存在しませんでした。2007年にＰＲプランナーの資格制度がスタートすることを新聞広告で見つけた私は、せっかく広報を担当しているのだから初回のこの機会に取得したいと思い立ち、受験の申し込みをしようとしたところ、何と、すでに定員に達し申し込みを締め切ったというではありませんか。出遅れて完全に意欲がそがれましたので、しばらくは日々の業務に忙殺されていましたところ、程なくしてまた偶然にも募集広告を目にし、今度こそ無事申し込むことができて資格取得に至る訳です。

私のときは、3次試験の後、さらに面接試験があったので、1次から面接まで、都合1年近く勉強し準備していたことになります。社会人になってからあれだけ勉強したのは、恥ずかしながらあのときだけです。今振り返ると、広報を長く経験していても、その全体像を体系的に学ぶ機会はまずありませんので、あの1年弱の期間は、その後も長く携わることになる広報という業務の土台を作ることができた大変貴重な時間となりました。

また、広報分野以外にも、宣伝やマーケティングなど、幅広くＰＲ関連の知識を身に付けることができたので、その後の実務においても大変役立ちました。

取得後は、ＰＲプランナーを浸透させたいという想いもあり、ＰＲプランナーであることを名刺に表記しています。ただ、私の取得当時はまだＰＲプランナーが500名程度でしたので、名刺交換の際に相手方もＰＲプランナーであることはあまりありませんでしたが、それでもお互いＰＲプランナーであったときには、共通の話題を持てて距離がぐっと縮まりました。さらに、ＰＲプランナーの交流会や個別の勉強会などを企画していただくようになると、交流の輪がますます広がりました。ＰＲプランナーという資格は、実益はもちろん、コミュニケーションツールとしても活躍すると感じています。

現在、協会の方々のご尽力で、ＰＲプランナーは1,500名以上に増えているそうです。私自身も、住宅メーカーの広報担当者同士の勉強会や異業種広報の集まりなどの際には、積極的にＰＲプランナーのことを話題にして取得をお勧めしています。ただ、まだまだ世の中に浸透しているとは言いがたい状況ですので、これからも各々、力を合わせて普及に取り組み、ＰＲという職種の地位を少しでも向上できればと願っています。

では、このバトンを同じ住宅業界で広報を担当しそのお人柄ゆえ周りの人たちからとても愛されている積水ハウスの東瀬治雄様に託したいと思います。

東瀬様、どうぞよろしくお願いします！

会 員 限 定

第161回定例研究会

メディア世界の未来予想図とこれからの広報・PR

～新世代メディア「NewsPicks」の戦略と広報・PRに求められること～

講師：株式会社ユーザベース
執行役員　NewsPicks 編集長
佐々木紀彦 氏

第 161 回（11 月度）は 11 月 27 日（木）六本木アカデミーヒルズで開催しました。
講師は㈱ユーザベース「NewsPicks」編集長 佐々木紀彦氏。テーマは「メディア世界の未来予想図とこれからの広報・ＰＲ」。
参加者は 55 名でした。

＜コラム関西の風＞

カジノ･IRについて考える

大阪ガス株式会社
秘書部経営調査室長　近藤誠一

ご縁があって日本パブリックリレーションズ協会会員誌に寄稿させていただくことになった。「関西の風」との洒落たタイトルのコラムに相応しいかどうか自信はないが、大阪・関西で侃々諤々の議論となっている「カジノを含むＩＲ（統合型リゾート）」の誘致について私見を述べたい。

カジノ・ＩＲについては周知の通り、賛成派は「地域活性化への起爆剤となる」「雇用創出につながる」と喧伝し、他都市に先を越されてなるものかと鼻息が荒い。一方の反対派は「賭博依存人口が増える」「非合法組織が暗躍する」と警鐘を鳴らしている。さて、どちらが正当な主張であろうか。私はこれまで、大阪・関西にカジノ・ＩＲを誘致することによる経済的メリットと、依存症対策等に要する社会的コストの定量比較を見たことも聞いたこともない。いわば「神学論争」の様相を呈している。

そんな中、カジノ・ＩＲの成功事例として有名なシンガポールの「マリーナ・ベイ・サンズ」と「リゾート・ワールド・セントーサ」を視察する機会を得た。この議論に関わる人であれば、大抵が視察に訪問していると思う。双方、中国人の富裕層と思える方で大いに賑わい、膨大な数のスタッフが働いている。経済効果は相当なものと説明があった。さらには、犯罪歴のある者、税未納者や生活保護受給者は入口でシャットアウトできるよう、個人情報管理が行き届き、その情報がカジノ事業者に提供されているとの話も聞いた。流石、“明るい北朝鮮”と揶揄されるシンガポールである。シンガポールはカジノ・ＩＲの誘致を国家的プロジェクトに位置付け、国民的議論を経て、大きな一歩を踏み出している。

さて、わが国、大阪・関西はどうか。シンガポールのように、国民レベルでの突っ込んだ議論が為されているであろうか。依存症対策として、シンガポールほど本気の対策を打つ覚悟があるのだろうか。東京五輪開催までに急がなければならないと焦るのであれば、もっと真剣な議論が必要ではないか。それは地元自治体の役目であると思う。

依存症対策として如何なる手段を講じるのか、経済的メリットと社会的コストを定量的に比較するとどうなるのか、府民・市民の目に晒してオープンに議論して欲しい。他都市に先を越されるからという理由で、急いで誘致に走るというのは、余りにもお粗末である。

そうは言いながら、「リゾート・ワールド・セントーサ」のトップは、大阪・夢洲アイランドに進出できるなら、鉄道も自ら敷設すると言う。それほどの経済効果があるのかと、驚きを隠せないでいるのも正直なところである。

PRSJ in Media

● 12 月 1 日（土）　『月刊広報会議』1 月号

『月刊広報会議』1 月号における当協会の連載コラムに、当協会が主催した「ＰＲプランナーフォーラム」の概要が取り上げられました。

「ＰＲプランナーフォーラム」は、ＰＲプランナーの研鑽を目的として 2014 年 2 月より当協会が開催を始めた研修会であり、第 2 回のフォーラムは 9 月 18 日にて東京にて行われました。
本フォーラムでは、(株)博報堂ケトル代表取締役の嶋浩一郎氏、(株)電通パブリックリレーションズの井口　理氏をお招きし、「次世代の広報・ＰＲを考える～ＰＲプランナーに求められること～」をテーマとしたパネルディスカッションが開催されました。
本フォーラムで嶋氏は、次世代の広報・ＰＲにおける課題として統合型コミュニケーションとコンテンツの重要性について語り、また井口氏はカンヌライオンズにおける広報・ＰＲの国際的な潮流として、「Strong Engagement」「Power of Design」「Metaphoric Expression」について受賞事例の紹介を交えてお話されるなど、次世代の広報・ＰＲをめぐる貴重なディスカッションが行われたことが紹介されています。

● 12 月 19 日（金）　『日刊建設工業新聞』

当協会が主催した「2014 年度ＰＲアワードグランプリ」において、旭硝子が「コーポレート・コミュニケーション部門」の最優秀賞を受賞したことが取り上げられています。
2014 年に開催されたサッカーワールドカップ ブラジル大会を舞台に、同社が競技者用のベンチにガラスルーフを提供し、世界各地でＰＲに努めたことが評価されたことが紹介されています。

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

■ 会員便り

当協会法人正会員のウェーバー・シャンドウィックが アジア太平洋地域主要8都市のソフト・パワー調査を発表しました。

アジア太平洋地域の主要都市「ソフト・パワー」調査で東京が高い支持を獲得
「観光」「食文化」などソフト・パワー要素 16 項目中 10 項目で最高位
～ウェーバー・シャンドウィック、アジア太平洋地域主要 8 都市の調査発表～

[東京発] 2014 年 12 月 11 日– 世界 81 か国で PR コンサルティングを提供するグローバル PR エージェンシーであるウェーバー・シャンドウィックは、アジア太平洋地域の主要８都市を対象とし、ソフト・パワーに関する初の調査を行いました。その結果、東京は、今回調査した 16 項目のソフト・パワーの要素のうち 10 項目において、調査対象 8 都市中の最高位を獲得しました。この調査は、軍事力以外の都市の評価・評判に影響を与える要素をソフト・パワーと定義して、16 項目を調査したものです。
ソフト・パワー要素として調査した 16 項目は以下の通りです。「観光」、「食文化」、「ジェンダーに関する寛容性」、「小売店と周辺地域」、「政治的意思決定」、「美術・文学」、「ニュース・メディア」、「現代建築とデザイン」、「見習いたい都市」、「スポーツ／レジャー施設」、「金融機能」、「学術研究・高等教育」、「サステナビリティーと環境」、「音楽」、「ソーシャルメディアとデジタルテクノロジー」、「生活水準」また、調査対象の８都市は、バンコク、香港、クアラルンプール、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、東京です。

調査概要
内　容　　：アジア太平洋地域ソフト・パワー要素 16 項目に関するアンケート調査
回答者(地域別)：18 歳以上の成人男女 4,147 人
＜東京 500 人、バンコク 515 人、香港 536 人、クアラルンプール 531 人、ソウル 520 人、上海 522 人、シンガポール 513 人、シドニー510 人、＞
調査方法　　：インターネット調査
調査実施時期：2014 年 7 月～8 月
調査機関　　：KRC リサーチ社

調査結果のハイライト

- **東京はソフト・パワー要素１６項目中１０項目*で最高位（第１位）**を獲得しました。
  *「観光」、「食文化」、「小売店と周辺地域」、「政治的意思決定」、「美術・文学」、「ニュース・メディア」、「見習いたい都市」、「学術研究・高等教育」、「ソーシャルメディアとデジタルテクノロジー」、「生活水準」
- **シンガポールは「サステナビリティーと環境」、「生活水準」において第１位**の評価を得ました。
- **香港は「金融機能」で第１位**の評価を得ました。
- **シドニーは「スポーツ／レジャー施設」、「現代建築とデザイン」、「ジェンダーに関する寛容性」、「音楽」で第１位**の評価を得ました。
- ソフト・パワー全体の評価について、**住民は自分の居住都市を非居住者よりも平均 18%高く評価**していました。特にシドニーは最も差が大きく（＋26%）、最も差が少ない都市はソウルでした（+5%）。

調査の背景と目的―アジア市場への注目

➢高い経済成長を続けるアジア太平洋地域の影響力はグローバル市場で注目されています。アジア諸国の訪日ビザ（査証）の発給要件の緩和などの影響もあり、2014 年の訪日客数は 10 月までで 1100 万人を突破し、国内消費市場での存在感が高まっています。2020 年に東京で開催予定のオリンピック・パラリンピックにより、東京は再び世界の関心を集めています。

➢ウェーバー・シャンドウィックは、アジア太平洋地域の都市が持つソフト・パワーの理解を促進し、行政・ビジネスへの活用促進と、国際都市としての地位向上への貢献を目的とし、KRC リサーチ社とともにアジア太平洋地域主要 8 都市の一般消費者 4,147 人を対象にオンライン調査を行いました。また各都市でメディア、デザイン、ファッション、建築、小売、スポーツ、貿易など幅広い分野の専門家 20 名に、ソフト・パワーについてのインタビューを行いました。

ウェーバー・シャンドウィックのアジア太平洋地域チーフ・ストラテジー・オフィサーであるイアン・ラムズビーは「アジアの国々が急激に都市化し、クリエイティブな人材の確保、都市への投資、観光収入をめぐる競争が激しさを増したことで、都市ブランドの評価・評判の向上は行政や都市の優先課題となっています。成功の鍵は、ユニークなソフト・パワー要素の相互のつながりを構築し、発展させ、明確に発信する能力です」と述べています。

都市の評価・評判を差別化する認識に関するインサイト

また本調査では、アジアの都市の評価・評判の推進力について、各界の有識者らによって次の 5 つの見解が明らかになりました。

アイデンティティ（Identity）

国のブランドが、都市を特徴付けるソフト・パワー要素に対する認識を醸成する能力を超えることがあります。訪問地としての魅力向上に注力する都市にとって、課題であると同様にチャンスでもあります。また有能な人材の獲得競争の中で、国としてのソフト・パワーを活用すると同時に、都市独自のブランド・アイデンティティを形成し双方でバランスをとることは、都市の総合的価値と提供する物事に対する深い理解を醸成する上で欠かせない最初のステップです。

周辺地域（Neighbourhoods）
都市の周辺地域は、そのユニークかつ多様なソフト・パワー要素を住民と非居住者に示す文化の集積（クラスター）です。特徴が明確な街は、人々の関心分野に適した独特なソフト・パワー要素を経験し関与する機会を提供します。そして地域の関心と関連性を人々の生活にまで高める都市は、評価・評判を高めます。

住民のアドボカシー（Citizen Advocacy）
今回調査した 8 都市の住民は、今回設定した各ソフト・パワー要素に対し一貫して、自分の都市について非居住者よりも 18%高く評価しています。
都市に対する住民のプライド（自尊心）の高まりをよく理解し引き出すことは、都市のソフト・パワーと密接な関連持っています。都市が成長し人々の生活が豊かになると、旅行をして異なる地域の人々とつながりを持つことが容易になります。したがって住民が大使として他の地域で自分の住む都市を推奨することを促すことは、都市のブランディングにとって大きな可能性を秘めています。

クリエイティブ・クラス（The Creative Classes）
クリエイティブな人々は、音楽やテクノロジーから持続可能性や設計に至るすべてで、イノベーションを支えるアイデア主導の経済を創造し、都市のイノベーションの強力な力になります。行政担当者は、都市に必要なクリエイティブな人材を惹き付ける多様な環境を醸成する方法について、戦略的に考える必要があります。
ウェーバー・シャンドウィックのアジア太平洋地域会長であるティム・サットンは、「クリエイティブで革新的な人材は、常に都市の文化と経済の発展に基盤的な役割を果たしてきました。常時インターネットに接続し、競争の激しい今日の世界でこのような人材を惹き付けるには、ブランドとしての高い評価・評判が必要です。行政担当者は、この新しい調査で明らかになった強力なアイデアと洞察を利用することで、都市のソフト・パワー要素に磨きをかけて収益化し、優秀な人材を獲得する競争に有利な評価・評判を築くことができます」 と述べています。

ピープル・パワー（People power）
魅力的な体験を提供できなければ、都市インフラへの巨大投資の効果が損なわれる可能性があります。空港であれ、スポーツ施設であれ、それぞれの場所での体験の評価は判断する人々にかかっています。人に基づくサービス文化に投資する都市は人々の体験を強化し「温かく、快適な」都市としての評価・評判を確実に高めることができます。

「魅力ある都市のソフト・パワーとは―アジア太平洋地域の都市の評価・評判（ 原題：*Engaging Cities: The Growing Relevance of Soft Power to City Reputations in Asia Pacific*）」レポートには、各都市の 16 項目のソフト・パワー要素のパフォーマンス分析と評価、その理由に関する回答者からのコメントが記載されています。このレポートでは、「都市の自尊心（City self-esteem）」も取り上げています。
調査対象となった 8 都市のインフォグラフィックスは、こちらよりご覧いただけます。
webershandwick.asia/engaging-cities （フルバージョン・英語版）
webershandwick.jp/engaging_cities_jp/ （抜粋版・日本語）

＃ ＃ ＃

【本件に関するお問い合わせ】
ウェーバー・シャンドウィック
担当： 楠 真理子
Tel： 03-5427-7348
E-mail: mkusunoki@webershandwick.com

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会
Ｅメール　mail@prsj.or.jp
ＦＡＸ　03－5413-2147

※　禁転載